
ドM勇者VSオネエ大魔王

暁月 麗華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DM勇者VSオネエ大魔王

【Nコード】

N4733V

【作者名】

暁月 麗華

【あらすじ】

（オネエ）魔王イヤーンによって平和を壊された世界。女王はこの世界で一番強い人間を勇者として、魔王を討伐させようと、

兵士に命令する。

だが兵士は勇者ごっこをしていたDM勇者マッゾを連れてきてしま
い・・・

平和を約束されたはずの世界。

ところが、一年前突然現れた大魔王『イヤーン』によって、この世界は魔物だらけの危険な世界と化した。

このままではいけない。大魔王を倒す者と言えば、勇者だ。

そう思ったサデイス王国の女王は、兵士に命令した。

「この世界で一番強い者を今日中にここに呼べ！」

短い時間で兵士が見つけたのは、赤マントの一見強そうな男マツゾ。しかし、この男は玩具の剣をぶらさげた、ただの勇者ごっここの馬鹿であった。そのことにはまだ誰も気づいていない。

女王は期待し、勇者マツゾを呼び出した

「選ばれし勇者マツゾは何処だ」

女王サデイは玉座から立ち上がって辺りを見回す。呼び出したはずの勇者マツゾが来ない。

「返事がない……だど？」

サデイがため息をついて玉座に座りなおす。すると、

「は〜い僕はここですけど何ですかあ？」

玉座の後ろから赤マントの男が現れる。

「ど、どこから出てくるのだ貴様！」

サデイは耐えられずに腰についている鞭でマツゾを打つ。だが、マツゾの顔は笑っている。

「痛あ〜いですよお。なんてことするんですかあ。僕は勇者なんですよお」

「貴様が勇者だと！？嘘をつくのもいい加減にしろ！」

二度目の鞭の攻撃。

「いたいですつてえ」

三度目、四度目。それでもマツゾの口は笑みに歪んでいる。

「……………いやあ、勇者マッゾって僕のことですよねえ。どうしてこんなに殴られないといけないのですかあ」

「誰が信じるか！」

鞭の攻撃が繰り返される中、兵士が女王に近付く。

「女王様、その者は確かに勇者マッゾです」

「なんだと!?!」

驚いたサディは攻撃を止める。

「そうそう。人を見た目で決めつけちゃいけないですよあ」

「ちつ……………」

舌打ちする女王の前でマッゾは、どや顔で立っている。

「早く大魔王を倒して来い! お前みたいな奴見るだけで吐き気がする!」

「吐き気え? でも女王様の顔青白くないですよあ」

「黙れ!」

また鞭が振り下ろされる。マッゾは避けようとしめない。

「だって、呼び出したの女王様じゃないですかあ」

「うるさーい! さっさと行けえー!!」

鞭の強力な一撃を受けてマッゾは渋々城を出る。

「なんなんですかあ。僕よりあの女王様の方が強いじゃないですかあ」

マッゾは一人で呟いて王国を出る。

「だいたい、大魔王イヤーンってどこにいるんですかあ? あ、イヤーンでしたねえ」

王国の外には美しい緑の草原が広がっている。魔物が出ると言われているはずなのに、今は一体も見当たらない。おかしい日もあるものだ。

「魔王さあ〜んどどこで〜すかあ〜!」

マッゾが叫ぶ。すると、

「あああ、アタシを呼んだかしら?」

どこからか声が聞こえた。

「ええ〜！イヤーンもう出てきちゃっていいんですかぁ？普通僕のレベルアップの時間ぐらくれたっていいじゃないですかぁ」

「レベルアップ？なによ、それ？」

マッツゾが後ろを振り向くと、筋肉ムキムキの魔王が立っている。よく見ると、ピンクの水玉のズボンをはき、首にピンクのリボンを結んでいる。

「まあいいですよぉ。僕は勇者ですからぁ、これから大魔王さん倒しますよぉ。ぁ、カメラ回ってるんですかねえ？僕の雄姿をしっかりと映して欲しいですからねえ」

そう言つてマッツゾは自分の左右を確認する。もちろん、カメラはない。

「ふざけないでちょうだい。この世界はアタシのものよ。明日から真っピンクに染めようと思つていたのよ。邪魔はさせないわよ」

「じゃぁ、仕方ありませんねえ」

マッツゾが剣（玩具）を構える。これは当たつても痛くない。

「いきますよぉ！」

マッツゾが走る。魔王は動かずマッツゾを見つめる。

「ええ〜い！」

剣が魔王の腹に当たる。それと同時にマッツゾの腕が魔王にぶつかる。

「いや〜ん触らないでよ！スケベ！」

悲鳴をあげた魔王がマッツゾにビンタをする。鈍い音と共に、マッツゾは吹っ飛ぶ。

「あははあ〜なんか変な気分ですよぉ」

「変態！キモス！」

「いやぁ、変態は魔王さんも十分当てはまりますよぉ」

この言葉が魔王の逆鱗に触れた。

「最低！このアタシを変態呼ばわりするなんて！」

「だって本当のことじゃないですかぁ」

「ひどおい！」

魔王が指から雷を放つ。

マッゾは真っ黒になった。

「ああ、この雷気持ちはいいなあ……………あれ意識が……………」

「

そして、世界はドピンクに染まった。

(後書き)

変態VS変態の対決です。

文とストーリーが適当ですみませんでしたorz

アドバイスがあればよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4733v/>

DM勇者VSオネエ大魔王

2011年10月7日11時29分発行